

(報告) 平成 30 年度「愛知県立大学グローバル学術交流」学術講演会
「ドキュメンタリー映画 *Atomic Mom* と制作秘話—科学といのち、核と平和、母と娘の葛藤」

【講師】 M. T. Silvia 氏 (ピクサー・アニメーション・スタジオ シニアマネジャー)

【日時】 平成 31 年 1 月 23 日 (水) 13:00~14:30

【会場】 愛知県立大学長久手キャンパス K 棟 2 階小ホール

【参加者数】 105 名 (受講生 15 名、愛知県立大学学生・教職員 : 65 名、一般 : 25 名)

(※英語による講演・日本語同時通訳あり)

M. T. Silvia 氏による講義及び学生との意見交換を行った。



(学生からの意見) (一部)

当時のアメリカでは、映画の中で原爆というものがとてもファニーというかまるで人体や環境に影響を与えないかのように扱われていたのが、個人的には衝撃を受けました。母と子でわかり合おうと歩み寄るには双方がしっかりと事柄に向き合う必要があると思いました。

サウンドに関して、私は各国の特長を用いていることに気が付きませんでした。日本を示す場合にはこの音色を用い、最終的に各国の音の一つになる工夫には様々な意味がこめられているのだろうと感じました。国ごとの核への価値観の一致や世界が一つになってほしいという平和への願いなどシルヴィアさんの思いが伝わりました。